

(別紙 7)

講演会、シンポジウム等の概要について（事後報告）

1 名称：「気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開」

2 日本学術会議側の主催者：防災減災学術連携委員会

3 その他の主催団体等：

- ・主催：一般社団法人 防災学術連携体
- ・後援：なし

4 開催日時：令和 5 年 4 月 11 日（火） 13 時～17 時

5 開催場所：オンライン開催

6 開催趣旨：

関東大震災から 100 年にあたり、地震災害とともに、私たちに迫りくる気候変動に伴う災害に対しても、意識の向上や災害対策を進めていくことが重要である。近年、台風・豪雨災害が毎年発生し、猛暑を含め異常気象による災害リスクも深刻となっており、世界各地でも熱波や洪水・干ばつなど、地球温暖化の進行も反映して災害が頻発している。さらに、国土と社会構造の変化に対応して災害の態様も変化してきている。このような状況も踏まえて災害対策や防災研究を進めていく必要がある。

このため、日本学術会議 防災減災学術連携委員会と、62 学協会等で構成する防災学術連携体は、「気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開」をテーマに公開シンポジウムを開催する。

シンポジウムでは、防災に関わる学協会の専門家が集い、気候変動がもたらす災害リスク、避難・救命救助・復旧活動などの防災対応、国土利用・まちづくりなど災害対策についての最新の研究・取組を共有し、今後の災害対策・防災研究のあり方を議論・展望する有意義な機会としたい。

7 参加人数：

講演者等：23 名

その他の参加者：1214 名

8 特記事項：

報道関係を含む幅広い分野から 1200 名を超える参加があった。試聴者より 39 件の質問があるなど活発なやりとりが行われた。共催の防災学術連携体のホームページに、当日の発表資料及び、講演の動画を掲載して、当日参加できなかった方への展開を図っている。